



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U. S. A. 南カリフォルニア倫理の会

7月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2013年(平成25年) 7月1日(月)

NO. 143

南カリフォルニア倫理の会へ訪問して

生涯局教育企画部部长

和田毅

滞在中、川田薫会長はじめ多くの会友諸姉諸兄にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

上空から見るロスアンゼルスは、広大な規模で広がる土地に、整然と住宅やビルが立ち並び、整然と圧巻でした。到着後は、食べものは美味しくてボリューム満点。しかし、私にとつては過分な量でも周囲の別席で召し上がっている方達の体格を見ると、このくらいは必要だろうと合点もいきました。総じてロスアンゼルス印象は、何もかもが、広い、大きい、大量……という印象です。

さて、五月十七日に新東京国際空港を十五時五十五分発のMAYO便で、LA空港を目指し、期待と不安が交錯しながらも期待に胸膨らませながら、約十時間後、緊張からかあまり寝られない私を乗せた機は、無事ロスアンゼルス空港に到着しました。初めてのアメリカ入国です。日付変更線を越える旅程に慣れない私には、十七日午後成田を出発したのに、十時間を

経て十七日午前十時に到着という事態に戸惑い、「これも一種の時差ボケだろうか」と独り言をいいながら、入国審査を終え、預けた荷物を受け取って到着口へと進みました。

到着口には、前田グレースさんと滝川政和さんが出迎えてくださり、お二人の優しく素敵な笑顔に触れた瞬間、肩の余分な力が抜けてゆくのを感じました。本当に、嬉しかったです。

今回の渡米は、倫理文化講演会、テーマ「母の品格」家庭の太陽」の講演を主たる目的に伺いました。講演会前日に行った臨場感あふれるリハーサルや打合せ、会場下見などの甲斐あって、本番は落ち着いて臨むことができました。

例年のように皆様の熱心な勧誘と、当日会場前に設置された会友の書道や短歌作品の展示が講演会の雰囲気盛り上げてくれました。今年度はテレビやラジオ・新聞広告などのメディアを活用した宣伝が相乗効果をもたらし、会場内外が活気に溢れ、ほぼ満員の盛況ぶりに、会友各位のご尽力の賜物と頭が下がりました。

た。実を申せば、その分プレッシャーも感じていたのです。

講演会終了後の懇親会で、今年の特徴として、会友以外の参加者が多くあったことと、子育て世代の若い方が例年になく多く入場されたとお聞きしました。

倫理文化講演会は、司会の土佐美代子さんがとても上品に開会宣言を行い、高校生の尾崎泰斗君が「母への感謝」と題してスピーチ。続いて、川田末子さんによる体験発表「母を語る」、お二人とも聞き応えのある内容で多くの方が感銘を受けました。

私の講演内容については：お聞きいただき如何でしたか。と、だけにとどめておきます。おそらく、どなたかが講演内容を要約して寄稿してくださると思いますので。

講演途中に使用した動画の音声がかうまく拾えず、映像・音響・照明を担当してくださいました。前田さんや梅本さんは、ご心配とご迷惑をおかけしました。

リハーサルと違い、本番では様々なことが起き得るものですが、お二方が冷静にすばやく対応してくださったお陰

で、無事に講演を終えることが出来たと感謝しています。

その後、伊澤潤子さんが活動紹介と出版図書紹介をパワーポイントを駆使して、とても分かりやすく行い、川田薫会長が締めのご挨拶。司会者による閉会宣言をもって、お開きとなりました。

モーニング・ミクサーでも講話を担当させていただきました。倫理研究所USAの基本的な活動として週一回、末長く継続開催していただきますようお願い申し上げます。

滞在中、多くの方々にお世話になりました。重ねて御礼申し上げます。またお会いできますことを楽しみにしています。皆様のご健勝を東京の地からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

五月十九日に行われた倫理文化講演会は「母の品格」家庭の太陽」のテーマで和田毅部長の講演でした。参加者は百二十名でした。



文化講演会の反省会

五月二十六日の朝の集いで
会員皆で話し合い、以下の点が
指摘されました。

良かった点

※スピーチ

川田末子さん、尾崎泰斗君、
お二人とも講演のテーマに添
ったスピーチで、すばらしか
った。

※会場の椅子

今回は数をやや少な目の百三
十席とし、参加者に前の方か
ら座って頂くように会員が案
内した。講演開始の時にはほ
ぼ満席の状態で、空席が目立
つということがなく、雰囲気
の良い講演会となったのが良
かった。

※参加者

若い方が来て下さった。「母
の品格―家庭の太陽―とい
うテーマが若い方々の興味を
誘ったのかもしれない。
メディアのPRを見てという
方が十人来られた。
会員のお友達という若い方も
来られた。

※入会者

小松和三（こまつ かずぞう）
さんです。橋勝男普及部長のお
友達です。講演会の日に入会
されました。どうぞよろしく。

反省すべき点

※コーヒー設置の件

コーヒー設置の目的は来場し
て下さった方々に、講演終了後
メンバーと和やかに話しをし
たり入会をお勧めしたりする
事です。そこを考えると、今回
のコーヒーの設置場所は適当
だったとは言えません。もう少し
広い場所にするように、来年
は一考を要します。あらためて
検討したいことです。

※活動紹介

パワーポイントの活動紹介に
使用している写真が古いので、
新しいのに入れ替えることが
出来るようにするべきです。
それには年間を通じて活動の
写真が必要ですが、写真の係り
を梅本豊造さんをお願いしま
した。

※懇親会

講演会終了後から懇親会まで
の時間がありませんでした。

来年はもう少し時間割をうま
く出来るように考慮したいと
思います。

※PR（有料広告）

今年是有料広告をテレビ、ラ
ジオ、雑誌、新聞に出しまし
た。メディアを使う宣伝は、
一日で効果があるというもの
ではないので、お金をかけた
分の早急な結果を求めるより
も、来年、もう一度やってみ
て、その結果で考慮するのが
望ましいです。

※録音

講演を録音する方法はないで
しょうか。受付の人たちは毎
年、折角の講演を聞くことが
できません。

※実行委員会

講演会の実行委員会を三ヶ月
位前から立ち上げると担当が
決まり、相談会によってスム
ーズに話し合いが出来ます。

※講演について

レジュメがあると、来場者が
内容を把握する一助になるの
で、これからはレジュメを
用意して頂く様、講師にお願
いすること。

反省会での話し合いを来年に
つなげて、より良い文化講演
会で広く倫理の普及をしてい
きましょう。

一般来場者の声

講演は、パワーポイントを使
い、流れも良く、感動しま
した。終わった後もう一度講
演内容について復習しようと
思ったのですがレジュメがな
いので、思い出せない所もあ
りました。スクリーンをみな
がら手帳にメモするのは以外
と難しいですね。

パワーポイントでの解説の
ために講師がステージの左に
おられました。説明は良かつ
たのですが顔がよく見えな
くて、講師の表情などを期待
していた自分には寂しかった
です。内容はすばらしいもの
でしたのでこの次は舞台の真
ん中の講師に会いたいです。

ドネーション

講演会に対したくさんの方々
からドネーションを頂き、合計
二一〇四ドルとなりました。
心よりお礼申しあげます。

摺木洋子さんに感謝

ストローラーに入っていた赤ちやんが講演の途中からぐずり出しましたね。癌の術後の身体にも関わらず摺木洋子さんが、すぐにベビーシッターを申し出て、尾崎理子さんと共に別部屋でお世話下さいました。おかげで講演を静かに行うことができました。お二方、ありがとうございました。

展示作品ができるまで

今年も文化講演会会場にて、秋津書道とときなみ短歌作品が展示され、来場者の目を楽しませてくれました。それらを眺めていると、毎年ボランティアで作品のフレーム作りを一手に引き受けて下さっていた鬼頭司郎さんのニコニコ顔が浮んでなりませんでした。講演会を前に、七十二歳の若さで亡くなられたばかりでした。思った事をポンポン口にされるのに、人柄なのか、言葉にトゲが無く、ユーモアが溢れていて、何でも笑いで代えてしまう不思議な方でした。

フレーム店に勤められていた関係で、残り物のマットを私達の作品に合う大きさにカットして下さっていました。短歌の横に水彩画を添えてくださると、作品はいきなり立派にみえました。永きに渡り、私達を支え続けてくださった司郎さんに、心より感謝し、ご冥福をお祈りしたいと思います。

また、今年は司郎さんの代わりにと、滝川政和、歌子ご夫妻、梅本豊造さん、大川敏子さん、グレース前田さんのご協力を得て、引き続き作品展示が可能となりました。作品の裏打ち作業や、挿絵の描きこみ、安くでマットを購入したり、作品をマットに貼り付ける作業等々。見えない所で滝川ご夫妻を中心とした皆さんが時間をかけ、神経を研ぎ澄ませて関わって下さった努力あってこそその展示コーナーでした。本当にありがとうございます。（草野律子記）

有坂宏一 研究員

七月十二日（金）十五日（月）本部より有坂宏一研究員がロスにご出張で来られます。

十二日（金）午後七時
ビジネスネットワーク、
十三日（土）午前十時
倫理勉強会、

十四日（日）午前八時半
モーニングミクスサーに続き
倫理セミナー
どうぞご参加ください。



講師プロフィール

法人局 普及事業部 次席
中国・四国方面 方面長
有坂 宏一
（ありさか こういち）

1994年4月 社団法人倫理研究所に入所し、2年間の教育を受ける

1996年4月 出版局編集部に配属。『新世』『倫理』などの編集にあたる

1998年4月 生涯開発局企画部（現 生涯局教育企画部）に配属

2001年9月 法人局教育業務部

2002年9月 総合教育企画室

2004年9月 研究局研究部

2005年4月 法人局普及事業部

2005年9月 九州・沖縄方面 副方面長

2008年4月 東海・北陸方面 方面長

2012年9月 中国・四国方面 方面長

現在に至る。

暑かった夏休みも終わりを告げ、実りの秋に。キツネ色に染まる稲穂がそれぞれの田園地帯で見られるこの時期。自然への畏敬を深めると同時に『新世』が創刊六〇〇号を迎えられたことに感謝します。

これは、一九九七年十月号の『新世』（一〇八ページ）の「記者ポツポ」にある有坂宏一先生の文です。一五年前、先生は『新世』を編集していらっしやったのですね。他の号では取材で会った人、自然の風景に感謝を書かれています。

おめでとうございます

『秋津書道』六月号 競書

- 入選 滝川政和 人の部 (東京)
- 入選 梅本豊造 高等部
- 入選 堀井幸江 高等部
- 入選 長谷川松子 高等部
- 入選 咲田静子 高等部
- 入選 前田グレース 一般部 (東京) 行書
- 入選 草野律子 々 々
- 一席 竹内康子 一般部 (東京) 楷書
- 入選 ノーリスてるみ 々 々
- 入選 大竹信雄 々 々



名前をもう少し大きめに。力強い作品です。

『しきなみ』六月号

入選 摺木洋子 真砂集 (西東京・海外)

文化活動の意義は何ですか

創始者丸山敏雄は「趣味」をととても大切にしました。ことに毎日忙しい生活に追われている人や、大きな仕事に取り組んでいる人こそ、趣味を持つことが大切であると強調しています。なぜでしょうか。

人は毎日の仕事や生活に追われていると、いつしか周りが見えなくなってしまうからです。そして知らず知らずのうちに判断がにぶくなり、やがては誤った判断にとらわれてしまうことさえあります。

しかし、趣味などに打ち込み無心になる時間を持つことによって、自分を客観的に見るゆとりが生じ、そのことにより大自然の「いのち」や、世の中の大きな変化を、改めて見つめ直すこともできるのです。

創始者は、こうした趣味などにより無心になることを「心に空所を持つ」と言いました。無心になることによって、直観力や判断力はますます高められます。『倫理運動ガイドブック』

しきなみ短歌

尾を立てて車よけつつ道渡る四季うすき
地にリス春つげる 和田好江

大家族の三十五人で祝いたり九十五歳の
義姉のバースデー 滝川歌子

たまわりし紫色の胡蝶蘭感動ひとしほ心
暖まる 奥本洋子

ラナンキュラス色さまさまに咲き揃う花
の回廊友らと巡る 杉野和子

デレックは「ばあちゃん来たよ」といわ
れても「アイ・ノウ」と答え知らんぷり
する 長谷川松子

野の露を名だたる庭に植えし彼の気持ちわ
かるも山育ちなれば 塩出笑子

おりがみで三匹おりし鯉のぼりロスの青空
ゆうゆう泳ぐ 橘高比呂美

「今イラク」ひらいたメールに記された友
の一文固まるわたし 伊澤潤子

リンカーンのモニュメントを妻の足かばい
ゆるりゆるりと石段上る 梅本豊造

骨折後初の長旅夫の手を借りてスミソニア
ン博物館へ 梅本和子

藤の花満ちし花房ちりつくし青葉重おも棚
を被いて 門園美枝子

抱かれて眠る赤子を見つめている周りの大人
の笑みは清らか ホン史子

七ヶ月の孫に食べさす息子の顔は「子供」
と「親」の混ざりし面 松永典子

師の手本起筆と緩急目で追いて終筆までを
共に息する 草野律子

検査後に医師は笑顔で吾の腸を「」切除し
ます」と 摺木洋子

まだ明けぬ遠足の日の台所のり巻き作る母
の背ゆれき 松元依子

二万人集って吉野振る舞いの酒と桜に酔い
しれる春 大川敏子

真帆片帆小島に隠れまたい出ぬ瑠璃色深き
瀬戸の海なり 西島幸彦

紫陽花も首伸ばし這う蝸牛も梅雨季の中に
絵の如くあり 伊勢田豊

いちだんと美しくなりたる親友の瞳に輝
く幸せの色 矢口裕司